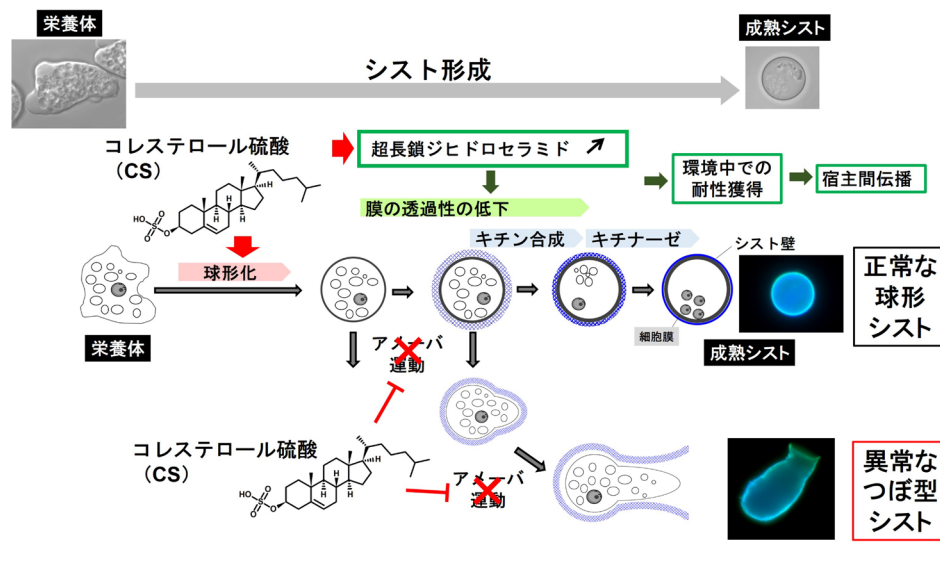


赤痢アメーバのシスト形成



Mi-ichi et al., PNAS, 2015
 Mousa and Sakaguchi et al., Parasitology, 2020
 Mi-ichi et al., mSphere, 2021
 Mi-ichi et al., Microbiol Spectr, 2021
 Mi-ichi et al., mSphere, 2022

図2 赤痢アメーバのシスト形成

形の休眠細胞が形成されます。この形成過程においてキチン壁が緩く合成された場合、中の細胞がアメーバ運動をおこし、縄文土器のような形のシストとなることも分かりました (図2)。これらは自然界で起こっている現象であり、非常に美しいというのが率直な感想です。このような寄生虫が織り成す現象の分子機構を一つずつ紐解いていく、そのステップ・ステップが研究の醍醐味であり、研究を重ねていく原動力になっています。

現在、熱帯医学研究所の共同研究室では最先端の機器の管理・維持を担当しています。最先端機器のメンテナンスを通して、研究機器の原理をより深く理解でき、また関連新情報に恵まれ、そして多くの研究者の方々とやり取りを通じた新たな発見・転機が多いことが大きな魅力です。自身の赤痢アメーバの研究においても、最先端の機器が整っており、病原体を研究対象とした研究者が多く所属する熱帯医学研究所に着任できたので、更なる発展を目指



図3 左から3番目が筆者

せる環境で日々精進しています。

寄生原虫、生化学に興味のある学生さんや博士研究員の方の参加をお待ちしています。少人数所帯ならではの自由度と新たな発見のチャンスにあふれていますので、興味のある方は是非ご連絡ください。そして研究・教育に努力していく所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。